

「新型コロナウイルスとの闘い、 在外の学校現場から」

韓国 釜山日本人学校 教頭 福島 勝成

- 2月23日(日) 24・25日の二日間の臨時休校と、保護者にお知らせを配付
- 2月24日(月) 24日から3月6日までの臨時休校のお知らせを保護者に再配付
健康観察開始
- 2月25日(火) 10時から12時児童生徒に課題渡し
- 2月28日(金) 初ZOOM職員会議 開催
- 3月5日(木) 実質今学期最終日13日まで休校の連絡を保護者に行う
- 韓国からの入国規制が9日から行われると実施されるとわかる 日本で2週間隔離
- 3月8日(日) 校長・教頭職 早期帰国
- 3月11日(水) 11時から12時まで児童生徒学習用具引取り
- 3月12日(木) 11時から12時まで児童生徒学習用具引取り 卒業式中止
- 3月13日(金) 離任式・修了式中止
- 3月24日(火) 臨時運営委員会
- 3月31日(火) 日本外務省から複数の国に対して「感染症危険情報」レベル3に
引き上げるとの発表

- 4月 1日(水) 午前中 学校から今後の授業が通常通り行えない見込みの旨発表
夕方 担任発表 在籍調査
- 4月 2日(木) オンライン用デバイスがあるかアンケート実施ご自宅端末状況
各ご家庭への端末調査
- 4月 3日(金) オンラインでの入学式を見越して運営委員長・校長・児童生徒会長に
式典挨拶動画依頼 新入生にも写真の提供依頼
- 4月 7日(火) 「登校での入学式中止のお知らせ」配付
- 4月 8日(水) 「オンライン授業の進め方について」配付
- 4月 8日(水)・9日(木) 教科書配付(学校にて)
- 4月13日(月) 本来始業式中止
- 4月14日(火) 本来入学式中止 臨時休校継続 健康観察開始・課題連絡
- 4月15日(水) 韓国選挙の日 式典配信用動画完成
- 4月16日(木) オンラインにて家庭連絡徐々に開始
- 4月21日(火) 学校だより「広安里」発行 連絡網で配信
- 4月22日(水) 明日の本番に向けて、実験動画一斉配信チェック
- 4月23日(木) 映像にて 着任式・始業式・入学式 オンライン配信
- 4月24日(金) オンライン授業開始(初日特活)

韓国オンライン授業
スタート状況

4月 9日(木) 高3・中3
4月16日(木) 高1・2・中1・2・
小4~6
4月20日(月) 小1~3

釜山日本人学校が取り組んだこと・苦勞したことについて以下に記載いたします。

●釜山日本人学校は、2月24日(月)からコロナ臨時休校となった。

まずは教員からオンラインに慣れようと、2月28日には、ZOOM職員会議を開催した。
3月8日に帰国予定教員の早期帰国となり、残る教員で新型コロナへの対応等今後のことを考えなければならなくなった。

3月中旬の様子からでは、現地や世界のコロナ情勢をみて、「簡単には収束しない」、「4月13日の予定日には開校できない」と考えた。新年度からの児童生徒の気持ちを宙ぶらりんさせないために、4月1日に新担任の発表をおこなった。新学年からの心のよりどころとなる新担任をいち早く発表し、新年度に向けての気持ちの切り替えをしてもらうことにした。

また、釜山は、電力供給も安定しており、ネット環境も世界的に見ても良いので、現地校も取り組もうとしていた「オンライン授業」をすぐに視野に入れた。

4月2日には、各家庭に、オンライン授業が受けられるかのネットアンケートを取り、端末が不足している家庭には校内の既存の端末の貸し出しをした。

かくして、着々とオンライン授業への準備を整えていった。

- 4月14日の入学式も「登校による実施は厳しい」との早めの判断で、3月下旬には映像による入学式を行うことを決断した。

しかしながら、式典のすべてをオンラインLIVE配信にすると思わぬアクシデントがあってはいけないと考え、万が一の時でも対応（再放映）できるように、式典全内容を事前録画し、オンラインによる映像配信を計画した。

学校運営委員長、新校長、新赴任教師、児童生徒代表、新入生に自宅でコメント等を録画してもらい、映像編集して、誰もが未体験の「映像配信の式典」を実施した。

映像の編集には大変時間がかかったり、学校のネット回線の混線が心配されたりしたが、事前のテストを経ていたので、なんとか大きな問題もなく終えることができた。

- 3月下旬には、予定派遣教師が4月の派遣予定日になっても派遣されないことがわかり、日本から韓国へのオンライン授業を行ってもらうように計画し、当初から未派遣教師にもオンライン授業を実施してもらっている。

★早め早めの決断が功を奏した。教職員が一致団結し、大変協力的な保護者の皆様と、いつも親身になって考えて下さる学校運営委員会の皆さま、そして設置者の日本人会、在釜山日本国総領事館総領事様をはじめとする皆さまのお陰で5月中旬現在ではオンライン授業を行えている。

次の課題は、段階を踏みながらどのような方法で、元の学校の姿に戻していくかが課題である。日本のように県や市の教育委員会が方向を示してくれるわけではないので、慎重に進める必要がある。